

埼玉政経セミナー

統一政策

みんなの越谷マニフェスト 2015

前文 未来への私たちの責任 ～地域から切り開こう～

私たちは今、どのような時代に生きているのでしょうか。

グローバル化によって、人、モノ、カネ、情報が瞬時に行き交う中で、日本は人口減少、越谷市も生産年齢人口の減少と急速な高齢化が進んでいます。

かつてのように、「人口が増え、消費が伸び、経済が成長し、税収が増え、地域に還元される」という成長モデルだけを信じ、未来を国や行政にお任せでいいのでしょうか。私たちは、バブル崩壊後の右肩下がりの20年でいったい何を学んだのでしょうか。

東日本を襲った大震災と福島原発事故。3.11は私たちの今までの社会のあり方を根底から覆す出来事でした。全ての資源を大量生産、大量廃棄しながら暮らしていくことを前提とした社会。地方の犠牲の上に成り立つ首都圏の繁栄とそれを享受する私たちの暮らし。それらが「もはや限界だ」と多くの人々が計画停電の中で感じていました。

しかし一方で、助け合いの精神に感銘を受けたのではないのでしょうか。職場から戻れない時に子どもや家を守ったお年寄りや地域の人々、人の役に立ちたいと自ら立ち上がった被災地の人々、これこそが新しい社会と確信し、地域を見直すきっかけになった事は言うまでもありません。そして、人口減少を抱える地方では新住民を中心とした多様な働き方、暮らし方、生き方に知恵の結集が始まり、発揮されています。

越谷市では、定年退職を迎え、改めて地域に目を向けた“光齢者”が、過去最大の日中人口で地域活動を始め、新しい豊かさを求めて社会のあり方や自らの暮らし方を見つめ直し、さらに若い世代が、新しいしくみの下で地域の政治にかかわり始めています。私たち「埼玉政経セミナー」は、新しい公共感を持って、市民と議員の役割と責任を明確にして、「地域再生と自治のプラットフォーム」を目指します。2011年の統一地方選挙では、政経セミナーに賛同する候補者が会派・政党を超えて統一マニフェストを掲げて選挙戦を戦い、当選後は毎年、市民と議員と一緒にマニフェストの点検・検証・実行を行っています。そして、その取り組みが評価され、2223件1459団体の中からマニフェスト大賞議会部門優秀賞を受賞しました。

この「みんなの越谷マニフェスト2015」は、中核市越谷の議員から市民への約束であると同時に、市民と「まちづくり」を一緒に行うための指針です。子どもたちに明るい未来を手渡せるよう、私たちの住む越谷から一緒に行動することを提案します。



江原 千恵子
(市議現職3期) 無所属



荻原 慎太郎
(新人) 無所属



菊地 貴光
(市議現職2期) 無所属



小林 豊代子
(市議現職1期) 無所属



白川 秀嗣
(市議現職3期) 無所属



辻 浩司
(市議現職2期) 無所属



寺島 義人
(新人) 無所属



山田 裕子
(新人) 無所属



藤澤 慎也
(県議現職1期) 無所属

新しい 豊かさ

成長社会から成熟社会へ

～高齢化のスピードが全国でもっとも早い地域である越谷で、
人と人が支えあい暮らししていく豊かさを実感できる地域へ～

1. 地域で支える医療・介護・子育てを進めます

- ①病気になっても介護が必要になっても在宅で暮らし続けられるための医療・介護・住まいのしくみとして、地域包括ケアシステムの構築を進めます。
- ②救急医療を充実させるため、地域の医療機関の連携を強化し、限られた医療資源を有効活用します。また、救急過密化の要因となっている緊急度の低い患者による「コンビニ受診」をなくすため、医療の現状についての市民の理解を広げます。
- ③市立病院の経営状況の公開を進め、経営健全化を促進します。健康づくりや予防医療の推進によって増え続ける医療費を抑制し、国民健康保険財政の健全化を進めます。
- ④祖父母の育児参加や子育て支援NPOなど、地域の多様な支え手によって子どもを育むしくみをつくりま

2. 地域を元気にする産業、生き生きと働ける仕事おこしを広げます

- ①地域が元気になる地域ブランド作りを進めるため、越谷ブランドコンテストを実施し、地域に愛される商品と雇用を創出します。
- ②今ある越谷の歴史・文化・自然・商業資源を結び、観光戦略を打ち出します。
- ③コミュニティビジネスなどの新しい産業おこしや、育児世帯の短時間就労などワークライフバランスの推進によって、誰もが生き生きと働き暮らせる社会をつくりま

3. 地域で循環する人・物・金・交通・エネルギーを広げます

- ①市民共同発電などの手法で再生可能エネルギーを地域で生み出し、市民がエネルギー供給に参加するしくみを広げます。また、公共施設の省エネ化などを進め、地域での創エネ・省エネを進めます。
- ②コミュニティバスなど循環型交通を市民が企画・運営にも参加する形で広げ、交通不便地域の解消と交通弱者の社会参加を促進します。

新しい 公共

税金は市民のお金 市民が決める 市民が使う

～行政お任せから、市民が決め責任を持つ地域コミュニティへ～

1. 行政事業を見える化し、声なき声を反映させ、税金の使い方を市民参加で決定します

- ①外部評価制度で無作為抽出の市民アンケートを実施。
- ②外部評価の検証過程に傍聴者も参加。
- ③外部評価委員に一般市民を加える。

2. 13地区が自立し、責任をもって、未来に投資が出来るしくみを追加します

- ①地区まちづくり助成金にコンテスト形式での実施枠の作成。
- ②地区まちづくり助成金で13地区ごとに自由に使える予算を制定。
- ③地区まちづくり助成金にお金のプール機能（繰り越しや貯蓄）の追加。

3. 市民活動でより有効なお金の使い方を実践し、市民が事業を選択できるようにします

- ①しらこばと基金・助成金で助成の決定に市民が参加できるようにする。
- ②しらこばと基金・助成金の事業内容を突発的活動や継続的活動にも使えるように緩和。
- ③しらこばと基金・助成金の使用用途・自己負担・上限を見直し、より運営をスムーズにできるように緩和。

新しい しくみ

改革のカギ しきみと意識を変える

～市民と議会が多様化したニーズに対応し、議論を「見える化」することで、
より一層の市民参加を促進し、開かれた議会へ～

1. 市民に開かれた議会への取り組みを行います

- ①委員会のライブ中継の段階的实施と議会の「見える化」。
- ②議長選挙公約の公開と検証。
- ③議会主催の市政報告会の開催。

2. 市民の声を議会に反映させるため、市民参加への取り組みを促進します

- ①議会傍聴への取り組み（市民アンケートの実施や市議会モニター制度等の検討）と埼玉政経セミナーホームページへの掲載とPR活動の実行。
- ②既存の市民参加手法による活動の実践と常設型住民投票制度の導入を検討する。

3. 次世代に向けた政策へ提言と取り組みを行います

- ①若い世代の投票率向上への取り組み。
- ②人口減少時代を視野に入れた適正議員定数の検討。

